

令和6年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立大森第七中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・各学年の取り組みの中で、考察の時間の確保に努めた。
- ・現第2学年において、授業内での語句の確認や小テスト等を行うことができた。
- ・ムーブノート等のタブレット端末の活用を行えた。

(2) 課題

- ・基本の定着が不十分な生徒への継続したフォローアップが必要である。
- ・考察の時間の確保に加え、文章などの表現についての指導を充実させる必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	知識・技能 ▼ 思考・判断・表現 △ 主体的態度 ≍		
第2学年	知識・技能 ≍ 思考・判断・表現 ≍ 主体的態度 ≍	知識・技能 ≍ 思考・判断・表現 ≍ 主体的態度 ≍	
第3学年	知識・技能 ▼ 思考・判断・表現 ≍ 主体的態度 ≍	知識・技能 △ 思考・判断・表現 ≍ 主体的態度 ≍ (第2学年時)	知識・技能 △ 思考・判断・表現 △ 主体的態度 △ (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回った。 基礎基本が定着する課題の設定や実験器具の操作、実験の技能の定着が必要である。	目標値を上回った。 現状を維持、向上できるような問題解決、考察場面を設定していく。	目標値を若干上回った。さらなる向上にむけて、主体性を養うための授業を工夫していく必要がある。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を若干下回った。 基礎・基本の用語や実験操作の定着が必要である。	目標値を若干下回った。読解力を求められる問題に対応できるように工夫していく必要がある。	目標値を若干上回った。さらなる向上にむけて、主体性を養うための授業計画の軸を工夫していく必要がある。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回った。	目標値を若干下回った。	目標値を若干下回った。

基礎・基本の徹底を図るため、演習を多く取り入れ、知識の定着を行う。	活用問題を解くための基礎知識が不足していることが読み取れる。	授業内の展開で、話し合い活動を取り入れるなどの工夫をしていく必要がある。
-----------------------------------	--------------------------------	--------------------------------------

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本知識・技能の定着を図るために、授業内での語句の確認や小テスト等を行う。また、長期休業には用語まとめ等の課題を設定する。	授業内で考察の時間を十分にに取り、効果的な活動を行わせるために ICT 機器を積極的に活用していく。	自他の意見を交換することにより、いろいろなものの見方があることに気づかせ、いろいろな意見を共有する機会を増やしていく。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本知識・技能の定着を図るために、授業内での演習時間を確保し、小テスト等を行う。また、教科書やワークの活用方法を改めて指導することで、自ら押さえておくべき語句や知識の確認を行う。	観察・実験の考察の場面では思考する時間を十分に確保する。また、ノートの活用方法を見直すことで、文章の表現等を養うことができる機会を設ける。	全体で前向きに授業に取り組もうとする姿勢を肯定し維持しつつ、来年の受験では2 学年の学習範囲も重要・土台となることを押さえることで学習の連続性を意識させ、主体性を高めていく。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
演習の時間を多く確保し、知識を定着させる。小テスト等で自身の状況を把握し、目標を持たせる。	まず表現するための知識を土台とし、図やグラフを用いての問題演習を多く行う。ICT を活用して発表するなどの活動も取り入れる。	話し合い活動を取り入れ、発表の仕方を工夫し、班で協力することで問題解決に取り組む姿勢を育む。